

県内最大規模の経営体を目指す、「米どころ庄内」の新たな農のカタチ —先進的技術の導入等による、未来型営農の実践—

農事組合法人 ファーム北平田
代表理事 岡部 博（酒田市）

1 受賞者の概要

平成28年1月に設立した、経営面積約460ha、構成員約100名を擁する県内最大規模の農業法人。水稲400haを基幹品目としながら、事業計画に基づいて、園芸部門の拡大や営農基盤の整備等に向けた取り組みを、迅速かつ着実に実行している。



2 特色ある活動

(1) 先進技術を導入した園芸部門の取り組み

小学校跡地を有効活用して、ミニトマトハウス4棟を導入し、先進的養液栽培システムである「ういずOne」及び「アイメック」栽培を平成29年度から実践している。栽培管理は若手従業員2名が担当し、収穫や選果作業には臨時雇用を導入することで、雇用創出にも大きく貢献している。



(2) 経営面積400haの水稲部門における作業効率化

水田面積は県内最大の約400haであり、コスト削減や、コンバインの共同刈取作業による、作業効率化を図っている。さらに、構成員の高齢化へ対応するため、GPS田植機等のスマート農業技術を積極的に導入している。

(3) 女性従業員の登用等によるSDGsへの参画

持続可能な農業生産を目指し、SDGsに積極的な取り組みを行っている。女性従業員の登用は特に意識しており、女性専用の個室更衣室及びトイレを完備し、働きやすい環境整備に努めるとともに、環境負荷軽減にも取り組んでいる。

(4) 「ファーム北平田」ブランド確立による高付加価値販売

「山形県版GAP認証」をミニトマトで取得し、高糖度トマトのフルティカを「庄内ルビー」という名称で、都内の百貨店で販売している。また、水稲部門においては、土づくり肥料の施用による北平田型「つや姫」の栽培に取組み、差別化による販売単価の上昇を目指している。

3 今後の発展方向

水稲部門の生産方式の改善を進めることで、大幅なコスト削減と作業効率向上を図る。また、水稲・園芸部門ともに有利販売に繋がる仕組み作りを行い、農業所得の最大化を目指す。一方、法人の発展方向としては、スマート農業技術等の導入によって、若い世代がわくわくするような未来型営農を目指しており、女性管理職の登用等も含めて、次世代の経営者確保に取り組む方針である。

The future prospects

